

## 経歴と業績

### 学 歴

昭和33年 3月 福井県立高志高等学校卒業  
 昭和35年 4月 法政大学第二文学部英文学科（昭和36年3月まで）  
 昭和36年 4月 法政大学文学部英文学科へ転部  
 昭和39年 3月 同上 卒業  
 昭和40年 4月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程入学  
 昭和42年 3月 同上 修了  
 昭和43年 4月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程入学  
 昭和46年 3月 同上 単位取得満期退学

### 職 歴

昭和33年 3月 (有)青木弘商店（昭和34年2月まで）  
 昭和34年 3月 安全石油株式会社（昭和35年3月まで）  
 昭和39年 4月 盈進高等学校助教諭（昭和42年3月まで）  
 昭和42年 4月 盈進高等学校教諭（昭和46年3月まで）  
 昭和46年 4月 実践女子大学文学部専任講師（昭和50年3月まで）  
 法政大学第一教養部非常勤講師（平成7年3月まで）  
 昭和47年 4月 立正大学教養部非常勤講師（昭和50年3月まで）  
 昭和48年 4月 中央大学経済学部非常勤講師（平成11年3月まで）  
 昭和50年 4月 実践女子大学文学部助教授（昭和57年3月まで）  
 昭和53年 4月 北里大学教養部非常勤講師（平成3年3月まで）  
 昭和57年 4月 実践女子大学文学部教授（現在に至る）  
 昭和60年 5月 実践女子大学・短期大学学生委員会委員長（昭和63年3月まで）  
 平成2年 4月 日本大学商学部非常勤講師（平成5年3月まで）  
 平成5年 4月 実践女子大学文学部英文学科主任（平成6年10月まで）  
 学校法人実践女子学園評議員（平成6年10月まで）  
 平成6年11月 実践女子大学文学部長（平成10年4月まで）  
 学校法人実践女子学園理事（平成10年3月まで）  
 平成10年 4月 学校法人実践女子学園理事長（平成18年3月まで）  
 平成15年 4月 学校法人実践女子学園評議員（平成18年3月まで）  
 平成18年 4月 学校法人実践女子学園学事顧問（現在に至る）

## 加入学会

日本英文学会

日本ペイター協会（理事、前会長）

日本ワイルド協会（顧問、元会長）

International Pater Society



恩師、故桂田利吉先生宅にて

## 研究業績

## 著書

平成7年7月 『ウォルター・ペイターの世界』（共編著）（『エピキュロス主義者マリウス』における「クピドスとプシュケの物語」の意義）所収

## 論文

- 昭和45年4月 「Pater と観照」 『テオリア』第1号
- 昭和45年10月 「〈直観の人〉と〈観照の人〉—レオナルド・ダ・ヴィンチとペイター」 『テオリア』第2号
- 昭和46年12月 「ペイターにおける印象」 『実践英文学』創刊号
- 昭和47年2月 「ペイターと家—《家の中の子》について」 『英文学誌』第14号
- 昭和49年11月 「あるがままに見ることは如何にして可能か—ペイターの批評の根底にあるもの」 『実践英文学』第6号
- 昭和50年6月 「ペイター批評史概観」 『私学研修』第67号
- 昭和51年12月 「われ また アルカディアにありき—ペイターとギリシア」 『実践英文学』第8号
- 昭和52年12月 「同上」(続) 『実践英文学』第10号
- 昭和53年7月 「《古代フランスの二つの物語》について」 『実践英文学』第13号
- 昭和54年7月 「同上」(続) 『実践英文学』第15号
- 昭和55年3月 「芸術品としての人間—ペイター《ピコ・デルラ・ミランドラ》について」 『実践女子大学文学部紀要』第22集
- 昭和56年3月 「中庸の世界—ペイターのボッティチェリ論について」 『実践女子大学文学部紀要』第23集
- 昭和57年3月 「力強さと甘美—ペイター《ミケランジェロの詩》について」 『実践女子大学文学部紀要』第24集

- 昭和57年3月 「Mariusにおける宗教の位相」  
『桂田利吉博士傘寿記念論集 コウルリッジとその周辺』  
法政大学出版局
- 昭和57年12月 「ペイターのルカ・デルラ・ロbbiea論について」  
『実践英文学』第22号
- 昭和58年12月 「透明性または自在心」 『実践英文学』第24号
- 昭和60年2月 「胚胎の原理—W・ペイターのレオナルド・ダ・ヴィンチ論について」 『実践女子大学文学部紀要』第27集
- 昭和60年11月 「神を観る—ホプキンズとペイターの場合」  
『アレーテイア』第1号
- 昭和62年3月 「胚胎の原理—W.ペイターのレオナルド・ダ・ヴィンチ論について」(承前) 『実践女子大学文学部紀要』第29集
- 昭和62年11月 「純粹ということ—深田康算とペイター」  
『アレーテイア』第3号
- 昭和63年7月 「観て想う—ラスキン、ペイターからワイルドへ」  
『実践英文学』第33号
- 平成3年6月 「世紀末イギリスを読む」  
『実践女子大学公開講座シリーズ第四集』
- 平成4年6月 「ペイターのプラトン論・序説」 『日本ペイター協会会報』第13号
- 平成5年9月 「ペイターのプラトン論」 『日本ペイター協会会報』第14号
- 平成6年11月 「思想家としてのペイター」 『英語青年』第140巻第9号
- 平成8年10月 「田中王堂とペイター」 『日本ペイター協会会報』第17号
- 平成9年10月 「ペイターと宗教」 『日本ペイター協会会報』第18号
- 平成9年10月 『オスカー・ワイルド事典』(「シェラード、ロバート」、「ジョンソン、ライオネル」、「1890年代」、「テイラー、アルフレッド」、「ハリス、フランク」、「ランサム、アーサー」、「ル・ギャリアンヌ」の項目執筆) 北星堂
- 平成10年1月 「ペイターにおける知的・芸術的営為の原点—能動的創造的受容性としての透明性=純一性」 『実践英文学』第50号
- 平成11年10月 「現代思想の先駆者としてのペイター」  
『日本ペイター協会会報』第20号
- 平成13年2月 「aestheticism ワイルドの場合」 『英語青年』第146巻第11号
- 平成21年10月 『『ルネサンス』の「序文」と「ジョルジョーネ派」について』

## 『日本ペイター協会会報』第30号

## 翻 訳

- 昭和47年12月 ペイター「或るイギリスの詩人」 『実践英文學』第3号  
 昭和48年7月 「同上」(続) 『実践英文學』第4号  
 昭和51年9月 S.T. コウルリッジ『文学評伝』(共訳) 法政大学出版局  
 昭和59年12月 ケイムズ卿ヘンリー・ヒューム『批評の原理』(一)  
 『実践英文學』第25号  
 昭和59年12月 『同上』(二) 『実践英文學』第26号  
 昭和60年7月 『同上』(三) 『実践英文學』第27号  
 昭和61年3月 『同上』(四) 『実践英文學』第28号  
 平成2年2月 H. ジャクソン『世紀末イギリスの芸術と思想』 松柏社  
 平成14年12月 ペイター『プラトンとプラトン哲学』  
 (『ウォルター・ペイター全集2』所収) 筑摩書房

## 編註書

- 昭和50年2月 *What We Owe to Greece* (現代とギリシア精神) (共編註)  
 桐原書店  
 昭和50年9月 *On Ignorance* (無知について) 学書房

## 書 評

- 昭和62年3月 伊藤勲『ペイター—美の探求』 『英語青年』第132巻第12号  
 平成2年8月 前川祐一『ダンディズムの世界—イギリス世紀末』  
 『英語青年』第136巻第5号  
 平成4年5月 小野寺健『英国文壇史—1890—1920』  
 『週刊読書人』1992年(平成4年)5月18日号  
 平成5年1日 Leo Chai, *Aestheticism: The Religion of Art in Post-Romantic Literature*  
 『英文學研究』第69巻第2号  
 平成11年12月 伊藤勲『ペイタリアン順三郎』 『英語青年』第145巻第10号

## 講 演

- 昭和62年7月 「観て想う—ラスキン、ペイターからワイルドへ」  
 日本ワイルド協会夏期セミナー  
 平成2年10月~11月 「世紀末イギリスを読む」(連続五回)

## 実践女子大学・短期大学公開市民講座特別講座

平成11年11月 「オスカー・ワイルド―自然は芸術を模倣する」

実践女子大学・短期大学公開市民講座

## シンポジウム

平成8年10月 「ペイターと宗教」 日本ペイター協会第33回年次大会

平成10年10月 「現代思想の先駆者としてのペイター」

日本ペイター協会第34回年次大会

平成11年5月 「ワイルドと郡虎彦」 日本ワイルド協会春期大会

平成12年6月 「ワイルドにおける宗教意識」 日本ワイルド協会春季大会

## 口頭発表

平成21年10月 「ペイターとニーチェ」

日本ペイター協会第48回年次大会・研究発表会 他18回

## その他

昭和63年7月 「観て想う―ラスキン、ペイターからワイルドへ」(講演要旨)

『ワイルド・ニューズレター5』

平成元年11月 「オスカー・ワイルドの赴くところ」

実践女子大学図書館 Library Mate 第3号

平成2年7月 「実践女子大学図書館蔵ワイルド・コレクションについて」

『ワイルド・ニューズレター7』

平成16年10月 「オスカー・ワイルド―芸術のための芸術に生きたモラリスト」

実践女子学園 TV 講座

平成20年10月 『『プラトンとプラトン哲学』翻訳余話』

『日本ペイター協会会報』第29号

## 事業業績(理事長として)

## 1、学園創立百周年記念事業(前任者より引き継ぎ遂行)

- (1) 桜ホール、事務センター、香雪記念館の建設
- (2) 式典(於『東京国際フォーラム』)・祝賀会(於『桜ホール』)開催
- (3) 募金事業(当初目標額三億円を二度更新して最終目標額四億五千万円をほぼ達成)

- (4) 『実践女子学園一〇〇年史』刊行
- 2、第一次経営五カ年計画策定
- (1) 財政の健全化（累積赤字の縮小）
- (2) 八王子グラウンド、常磐寮跡地の活用
- (3) 教育研究施設設備の整備と充実
- (4) 企画・広報の充実と活性化
- (5) 生涯教育、社会人教育の推進
- 3、『実践女子学園生涯学習センター』設立  
（知的財産による地域社会への貢献と生涯学習支援のため）
- 4、『有限会社 権企画』設立  
（事務職員の業務軽減と学園財政への寄与のため）
- 5、「情報センター」設置（学園の情報環境整備のため）
- 6、「国際交流センター」設置（国際交流の推進と活性化のため）
- 7、第二次経営五カ年計画策定
- (1) 教育内容のさらなる充実と質の向上
- (2) 財政の健全化
- (3) 奨学金制度の充実
- (4) 学生・生徒のキャンパス・ライフ支援強化
- (5) キャンパスの総合的有効活用
- 8、『人間社会学部』新設  
（短大の入学定員削減のためと大学改革の起爆剤として）
- 9、「四号館」（大坂上キャンパス）改築（『人間社会学部』新設にともなう）
- 10、語学教育研究センター設置（語学教育の充実のため）
- 11、「キャリア・センター」設置（学生の就職活動支援強化のため）
- 12、キャンパス内にコンビニエンス・ストア三店舗誘致  
（学生への便宜供与と学園財政への寄与のため）
- 13、大学・短期大学事務部改編（学生サービスの向上のため）
- 14、『桃夭館』（渋谷キャンパス）建設（一部校舎改築にともなう）
- 15、学祖下田歌子先生生誕一五〇周年記念事業（式典開催と記念切手発行）
- 16、『国際交流会館』建設（留学生受け入れのための一環として）
- 17、繰越消費支出額（累積赤字）の縮小（着任時47億円を退任時23億円に縮小。但し、これは当時の常務理事高野金三氏の多大な尽力によるものであったことを特記しておきたい）